

小学校外国語活動・中学校外国語研究部

I 研究主題

- 小学校におけるコミュニケーション能力の素地の育成と中学校への接続
— 小学校で実践している活動を中学校へどのようにつなげていけばよいか —

II 主題設定の理由

1 はじめに

英語教育の改革が始まり、新たな教育課程の本格実施から2年が経過した。中学校において、週3時間であった授業が週4時間となり、英語は中学校3年間で授業数が最も多い教科となった。また、小学校では主に5、6年生を対象とし「聞くこと」「話すこと」を重点においた外国語活動が始まった。改訂前は中学校の重点目標が4技能の「聞くこと」「話すこと」であったことを考えると、小学校の外国語活動が果たす役割は大きい。改訂後は中学校においては「4技能の総合的な育成を目指すこと」と改善されている。さらに高等学校の授業を英語で行うことが基本とされた。

以上のことから、外国語活動や外国語に課せられた役割の重要性を改めて認識するとともに、各校種の役割を十分に意識しながら、外国語活動や外国語の授業を展開することが重要であると考えられる。本研究部では、小学校と中学校の英語教育が果たす外国語活動と外国語の役割と連携について研究し、その目指すべき方向性について明らかにする。

2 小学校における外国語活動の役割

外国語活動は、「外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う」という目標のもと、年間35時間、週1時間の学習が展開されている。小学校外国語活動における小学生の意識調査の結果では、小学生の3/4が「英語の学習が好き」、9割が「英語が使えるようになりたい」となっている。(平成25年度全国学力・学習状況調査)

外国語活動では、学級担任が中心となり指導を進めていくことが基本となっている。しかし外国語が専門ではない小学校教員が指導を進めるため、AET等とのチームティーチングも活用しながらできることとして以下のことが考えられる。

外国語が苦手であっても、褒め言葉を中心にクラスルームイングリッシュを意識的に使用し、学級担任が学習のモデルとなることである。褒め言葉は短く、児童にとってうれしい言葉であると同時に、使用場面がはっきりしているため教員も使いやすい。

外国語活動では、道案内やインタビューなど会話場面が設定されており、コミュニケーション活動の工夫が求められる。児童が「言いたい」「聞きたい」と思える内容であることが大切となる。そこで、担任は見通しを持ち、小学校ならではの行事や他教科とのつながりを重視し学級や個々の児童の実態に応じた授業展開を行っていくべきである。また、外国語活動では、リズムやイントネーションといった音の指導が中心となり、文法的要素は扱わないこととなっている。児童が音に触れることでコミュニケーション能力の素地を養うように心がけていく必要がある。

3 中学校における外国語の役割

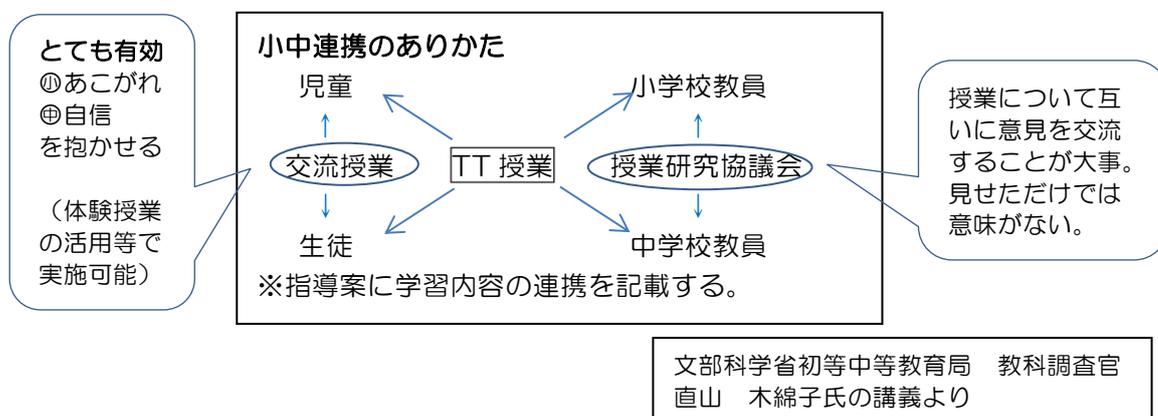
外国語の目標は、「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う」である。客観的な英語力データとして、中学3年の英語検定3級以上の合格者の割合は32%程度の取得となっている。

これらの現状を踏まえて、中学校英語の役割として、「音声から文字への丁寧な指導」や「正確さ、適切さの指導」がある。例えば、小学校外国語活動では、「私は～が好き・嫌い」「I like ~. / I do like ~.」と言っていた児童が、正確さや適切さを伝える手段となる文字を中学校で学習することにより、I do like ~.がI don't like ~.であったと認識できることになる。音として、聞きあいまいであった部分が中学校で正確さと適切さを身につけることになる。また、grass と glass といった個々の音について指導する必要もある。

中学校では、英語で進める授業を基本とし、たくさん、聞く・話す・読む・書く活動の設定が求められている。さらに、即興的に話す・読む・書く活動が充実することで、生徒の思考力向上につながる。例えば、曜日や天気を聞いた後に Do you like~? Why? と即興性のあるものを帯活動で取り入れていくことができる。また、教科書の内容について考え、意見を表現する活動の設定も行える。このように専門的な知識をいかし、生徒の理解がより正確に深まるように授業を行う必要がある。

4 小中連携

小学校2年間、中学校3年間の外国語教育を円滑に接続するために、小中連携の効果が期待される。所沢市では小中5年間を見通し、15中学校区内の小学校に同じAETを配置している。また、小中連携の形として、児童生徒間や教員間の交流、TT授業もある。



交流を通して、児童は中学生が英語を話す姿に触れ、先の見通しを描くことができ、身近な中学生の姿に憧れを抱くことができる。一方、生徒は自信を得ることができ、両者にとって効果的で、学習意欲の向上につながる。

また、教員同士の交流を持つことは情報交換としての働きだけでなく、教材の共有化もでき、より質の高い授業へとつなげることができる。例として、所沢市が製作した授業で活用するオリジナルマルチメディア教材『英語学びノート DVD 小学生版』を中学校で使用することもできる。また、小学校の教材 Hi, friends! を活用する方法もある。

Hi, friends! の中学での活用例

- ◆Hi, friends!①Lesson5 で児童が作った T シャツを写真にとっておき中学校へ送る
⇒黒板に貼る Whose を引き出す・受動態の導入などにも使える
- ◆Hi, friends!①Lesson6 のアルファベット
普通 C は cat、D なら dog を使うが、Hi, friends! では crayon や dram である
⇒中学では発音とつづりの関係を教えるときに P23 を使い指導できる
- ◆巻末のアルファベットカード 色に隠された秘密→赤(A/E/I/O/U)母音
⇒中学校でこのカード使って音を教える!
- ◆Hi, friends!①Lesson 7 cup/cap や glove/globe などの扱い場面。
⇒文字を使い、正確なことを教える
- ◆Hi, friends!①Lesson7 NICE 小学校では、クイズに注目させているため、NICE
⇒マジック E を教える教材

文部科学省初等中等教育局 教科調査官
直山 木綿子氏の講義より

中学校の英語担当教師が、小学校の各学年で扱われている学習事項の系統や既習事項の把握等が事前にかつ適切に行われることが重要である。そして、教員間の共通理解、相互理解の上に、学習者である児童生徒にとって、外国語活動の素地の延長線上に、その既習事項を活用することで、コミュニケーション能力の素地から基礎につながる学習が展開されることとなる。

外国語活動と中学英語の共通点/相違点をしっかり認識することが大事!



スムーズな接続と適度な段差になる

小学校

- ・あいまいに聞く
- ・状況に依拠した理解と発話(場面)
- ・言葉への気づき
- ・文章記述による評価

子ども言葉

中学校

- ・正確に/適切に
- ・教室外/一人でも
- ・知識/理解
- ・到達目標/絶対評価

おとな言葉

文部科学省初等中等教育局 教科調査官
直山 木綿子氏の講義より

本研究において、言語活動そのものである外国語活動・外国語の授業の充実が、主体的に学習に取り組む児童・生徒の育成につながると考える。先に述べた外国語活動や外国語に課せられたそれぞれの役割を十分に意識して授業を展開することが重要である。さらに、「聞くこと」「話すこと」を重点においた小学校外国語活動の学習内容が、円滑に中学校へ接続することが重要であると考え本主題を設定した。

Ⅲ 研究の内容

1 研究の方向性

小学校5年生から中学校3年生の活動・指導内容において同一の題材を取り上げ、5年間の活動や指導内容の流れを意識しながらそれぞれの学年において授業研究を行い、その成果と課題を検証することとした。まず、5年間の活動・指導内容の全てを洗い出してみた。その中から買い物場面に焦点をあてることとした。

学年	たずね方		答え方	
小5	What do you want?	What would you like?		
小6			I want to go to ...	I want to go to ...
中1	What <u>color</u> do you want?		I want a <u>red one</u> .	I want a <u>red one</u> .
中2		Would you like anything else?		I'm looking for some jeans.
中3				I'm looking for a pair of shoes.

中学校で学習する買い物場面での目標は、「買い物で用いる定型表現を正しく身につけ運用する。」とある。教科書で出てくる定型表現は以下のようなになる。

中1 What color do you want? I want a red one.

中2 Would you like anything else? I'm looking for some jeans.

中3 I'm looking for a pair of shoes.

こうした定型表現を文法的に説明する目的ではなく、表現に慣れさせる目的で外国語活動に取り入れていくことは中学校への接続をスムーズにすると考えられる。また、買い物場面に必須な「What ~do you want?」「want」「would like」を系統的に取り組みせることは外国語活動で可能である。以下に「Hi, friends!」の学習内容から定型表現文や必須表現の活動が可能な単元を取り上げる。

小学校5年生 Lesson 5 「What do you like?」 Tシャツ作りの活動

Lesson 6 「What do you want?」 アルファベットカード集めの活動

Lesson 9 「What would you like?」 ランチメニュー作りの活動

小学校6年生 Lesson 4 「Turn right.」 道案内で「～したい」を伝える活動

Lesson 5 「Let's go to Italy.」 旅行代理店でのやりとり

単元の活動に限らず、クラスルームイングリッシュの中で、定型表現文を扱う場を増やしていき繰り返し表現に慣れさせていきたい。

【授業実践計画】

- | | | | | |
|-----|--------|--|------|-----|
| (1) | 小学校5年生 | What do you like ? | 上新井小 | 9月 |
| (2) | 中学校2年生 | 買い物② | 中央中 | 10月 |
| (3) | 小学校6年生 | Let's go to Italy.
What do you want to go ? | 松井小 | 11月 |
| (4) | 中学校1年生 | 買い物① | 小手指中 | 12月 |

3 指導実践例 Let's go to Italy. 「友だちを旅行にさそおう！」 小学校6年生

(1) 小中連携に焦点を当てた指導観

【場面の重視】

中学校で学習する **Speaking** の場面は、「洋服屋①②」「ハンバーガー店」「靴屋」の店員とお客のやりとりである。店員と客のやりとりが小学校外国語活動、「Hi, friends!」で登場する場面をあげてみると、小学校5年生 Lesson 9 「What would you like?」のランチメニュー作り活動での店員と客とのやりとりのみになっている。2年間ペア活動でやりとりをすることは多いが、買い物場面を想定したやりとりには至っていない。

(各学校で工夫した取り組みはあると思うが)そこで、場面づくりを重視し、定型表現を話す必要感を出すことに重点を置いた。これにより、積極的にコミュニケーションを図る態度の育成につながるのではと考える。

具体的な手だてとして、本單元では

- ① 総合的な学習の時間」とテーマと関連させる。
- ② お店の雰囲気づくりをする。
- ③ 定型表現文を入れたやりとりをする。を考え取り組んでいる。

総合的な学習の時間では、「世界遺産」をテーマに自分の興味のある国について調べ学習とまとめを行っている。このテーマと今回の活動の発表を関連させることで自分の行きたい国について詳しく発表できると同時に自信をもって取り組めると考えた。また発表の準備に時間がかかり、「話す」活動時間が制限されることが多かったが、関連して学習することにより、時間短縮につながった。

店の雰囲気づくりをするために、実際の旅行代理店を模して、行先の名所カードや代理店の看板を飾ったり、机とイスを用意したり、チケットを作ったりした。このようなことにより、児童同士で店の雰囲気を演出するような演技も見ることができた。また、発表の形式として、一人でスピーチすることが多い6年生の活動をペア学習のやりとりにすることで、児童は「やりやすかった。」との声があった。

定型表現文として、「～, please.」「Here you are.」を入れた発表原稿にしている。実際のやりとりに即し、かつクラスルームイングリッシュや既習事項の復習としてスパイラルで取り組めるようにした。

(2) 本時（5時間目／5時間）の目標と展開

- 友だちの行きたい国について聞いたり、自分の行きたい国やその理由を伝えようとしてしたりする。㊟（コミュニケーションへの意欲・関心・態度）
- 行きたい国についてたずねたり、言ったりする表現に慣れ親しむ。㊞（慣れ親しみ）

過程	学習内容	児童の活動 ㊟	T. Tの動き ㊟HRT ㊟JET	○指導上の留意点 ●評価規準・準備
挨拶 5分	1 Greeting あいさつ	㊟㊟ Good morning, everyone. ㊟ Good morning, ~. How are you? ㊟I'm ~ thank you, and you?		○これから授業が始まるということが意識できるよう、元気よく挨拶をする。 ○I'm fine. 以外の言い方にもふれる。
導入 5分	2 Warm up キーフレーズの復習をしよう!	・キーフレーズを復習する。	㊟㊟国旗カードと観光名所カードをホワイトボードに貼っていきながら繰り返し練習する	・国旗、名所カード ・名物の食べ物カード ○世界一周ゲームで登場する国名と同じ順番で練習するようにカードを示す
	Where do you want to go? I want to go to ~. I want to see ~.			
10分	3 世界一周旅行ゲーム	・ペアで世界一周ゲームをする。	㊟世界一周ゲームのやり方を確認する。 ㊟言い方の練習をする。	・世界一周ゲームワークシート ○積極的に声に出そうとしている態度を褒めるようにする。 Nice try! Good job! Very good! ●表現に慣れ親しんでいる。㊟ ○様々なペアでやりとりができるよう声をかける。
	<p>世界一周ゲーム</p> <p>A&B : Hello.(じゃんけんをする。)</p> <p>A (負け) : Where do you want to go?</p> <p>B (勝ち) : I want to go to ~. I want to see~.</p> <p>じゃんけんですつとワークシートの次の国へ進める。</p>			
展開 20分	4 Skit 旅行代理店のやりとりを発表しよう!	・㊟と㊟にあわせて全体でやりとりの練習をする。 ・ペアでやりとりの練習をする。	㊟前回の発表の続きで、旅行代理店の店員と客になり発表会をすることを伝える。 ㊟発表の留意点を伝える。 ㊟前回の発表で良かった点を伝える。 ㊟㊟役割を決めてやりとりのデモンストレーションをする。 ㊟発表会の進行をする。 ㊟児童のサポートをする。	・国旗カード ・観光名所カード ・名物料理カード ・旅行代理店看板 ・フレーズのカード ○発表の留意点について触れるようにする。 ①clear voice ②eye contact ③good listener ④good gesture ○発表の留意点に気を付けようとしている態度を認めほめていく。 ○旅行代理店の雰囲気を出すために観光名所カードや店名カード等を掲示する。 ○児童に友達の発表の良い点を探させ自身のコミュニケーションに生かせるよう促す。 ●積極的に話した
	<p>At the MATSUI travel agency</p> <p>A : Travel Agent T: Tourist</p> <p>A : Hello!</p> <p>T : Hello!</p> <p>A : My name is ~.</p> <p>A : Where do you want to go ?</p> <p>T : I want to go to ~. I want to see ~.</p> <p>I want to eat ~.</p> <p>Ticket please.</p> <p>A : Here you are.</p>			

		・友だちの発表の良い点を話す。	㊤㊦発表の中盤で発表の良い点を児童に聞きほめる。	り聞いたりして いる。㊧
まとめ 4分	5 Cool down 学習の振り返り	・学習の振り返りをワークシートに記入する。	㊤めあてを確認して、反省の視点を明確にする。学習したことがまとめられるよう声かけをする。 ㊦児童のサポートをする。	○自己評価が高かった観点は大きいにほめる。 ○単元で学んだ内容をまとめるようにワークシートを観点に分ける。
挨拶 1分	6 Greeting あいさつ	・あいさつをする	㊤㊦今日の授業でよかったところをまとめて話す。	○良くできたところを評価する。
		㊤That's all for today. ㊦Thank you, ~. ㊤㊦ See you next time.		

4 指導実践例 中学1年

- (1) 単元名 SUNSHINE ENGLISH COURSE 1 Speaking 4 『買い物①(Tシャツを買う)』
- (2) 単元(題材)について(省略)
- (3) 単元(題材)の目標
買い物特有の表現を用いて、自分の欲しいものを注文したりそれに対する応答ができる。
- (4) 評価規準

評価の観点		内容のまとめりと本課の評価規準	評価方法等
ア. コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	S	間違えることを恐れず、積極的に話している。	活動の観察
イ. 外国語表現の能力	S	買い物表現を用いて、自分の欲しいものを注文することができる。	活動の観察 後日ペーパーテスト
ウ. 外国語理解の能力			
エ. 言語や文化についての 知識・理解	S	正しい語順や語法を用いて文を構成する知識を身につけている。	活動の観察 後日ペーパーテスト

(5) 単元(題材)の指導計画 *各時間 10~15分程度

1時間目	本文の聞きとりと音読練習
2時間目	ペアで本文の音読練習 1
3時間目	ペアで本文の音読練習 2
4時間目	ペアで暗唱練習 1
5時間目	ペアで暗唱練習 2
6時間目	注文する品物等を変え、ペアで練習
7時間目	注文する品物等を変え、ペアで暗唱練習 1

8時間(本時)	① 注文する品物等を変え、ペアで暗唱練習 2 ② 「役立つ表現」の練習
9時間目	「役立つ表現」を加えながら、対話練習

(6) 本時の学習

目標 買い物表現を用いて、自分の欲しいものを注文することができる。

評価規準

評価の観点	内容のまとめりと本時の評価規準		評価方法等
ア. コミュニケーションへの関心・意欲・態度	S	間違ふことを恐れず、積極的に話している。	活動の観察
イ. 外国語表現の能力	S	買い物表現を用いて、自分の欲しいものを注文することができる。	活動の観察 後日ペーパーテスト
エ. 言語や文化についての知識・理解	S	正しい語順や語法を用いて文を構成する知識を身につけている。	活動の観察 後日ペーパーテスト

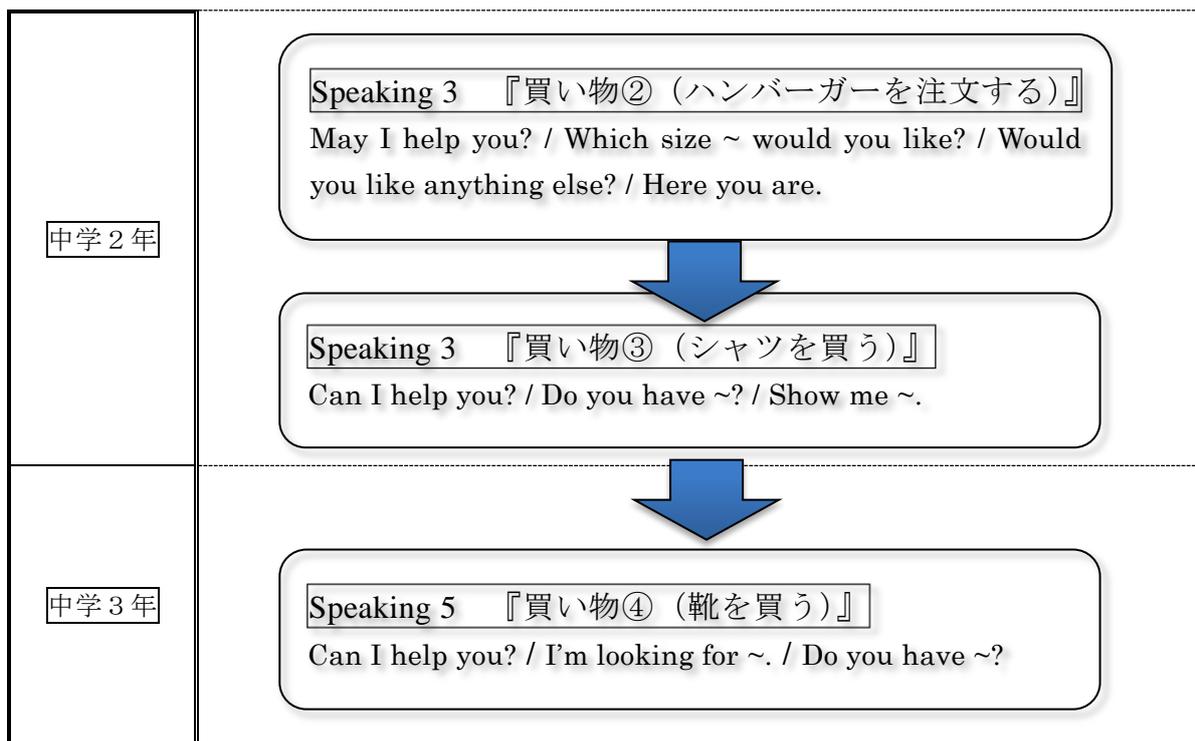
(7) 展開例

8時間目：注文する品物等を変え、ペアで暗唱練習 2。「役立つ表現」の練習 *本時

学習活動	指導上の留意点	評価と手立て	時間
1. 本文の音読練習 2. 注文する品物等を変え、ペアでなるべく見ずに練習（相手を変え5回程） 3. 指名をしてペアで音読 4. 「役立つ表現」の音読練習	<ul style="list-style-type: none"> テンポよく、方法を変えて行う。 発音の間違い等に留意し、適宜指導する。 	ア S 活動の観察 イ S 活動の観察 エ S 活動の観察	15分

中学校3年間で扱われる言語の使用場面（「買い物」）

学年	単元や言語の使用場面 / 主な表現
中学1年	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center;"> <p>Speaking 4 『買い物① (Tシャツを買う)』</p> <p>Can I help you? / I'm looking for ~. / What color do you want? / I want ~. / How much is it?</p>  </div>



“Speaking”は言語の使用場面を日常生活の中に設定し、「話すこと」に主眼を置いた単位である。「電話での会話」や「道案内」などテーマは様々である。「買い物」はその中のテーマの1つであるが、3年間を通じて最も多く4回も扱われている。

使用される表現の中には繰り返し扱われるものもあり、3年間を通して定着を図ろうとする意図が見られる。

学年	単元や言語の使用場面	主な表現等
小学 5 年	Lesson 5 『 What do you like ? 』 友だちにインタビューしよう！	<ul style="list-style-type: none"> • What color do you like? • I like blue and green.
小学 5 年	Lesson 6 『 What do you want ? 』 アルファベットをさがそう！	<ul style="list-style-type: none"> • What do you want ? • I want T card, Please .
小学 6 年	Lesson 5 『 Let's go to Italy ? 』 友だちを旅行にさそおう！	<ul style="list-style-type: none"> • Where do you want to go? • I want to go to ~. • I want to eat ~.
中学 1 年	Speaking 4 『買い物① (T シャツを買う)』	<ul style="list-style-type: none"> • Can I help you? • I'm looking for ~. • What color do you want? • I want ~. • How about ~? • How much is this?
中学 2 年	Speaking 3 『買い物② (ハンバーガーを注文する)』	<ul style="list-style-type: none"> • May I help you? • Which size ~ would you like?

		<ul style="list-style-type: none"> • Would you like anything else? • Here you are.
中学2年	Speaking 5 『買い物③ (シャツを買う)』	<ul style="list-style-type: none"> • Can I help you? • Do you have ~? • Show me ~.
中学3年	Speaking 5 『買い物④ (靴を買う)』	<ul style="list-style-type: none"> • Can I help you? • I'm looking for ~. • Do you have ~? • How about ~?



会話の流れの説明



活動の様子

5 授業を終えて

中学校を指導する教員にとって、小学校での外国語活動を知ること、教育課程を踏まえることで、コミュニケーション能力の素地がどの程度培われているかを理解することができた。

小学校では場面シラバス、中学校では文法シラバスというカリキュラムで授業が構成されていることを考えると、教育課程上、直接的に接続している部分は限られていること分かった。研究を進めていく中で、①関係認識は小5～小6、小6～中1、中2～中3の3段階があることがわかった。②小6～中1は

V 成果と課題

○成果

1つの共通する単元に絞り込み研究授業を行う計画を立てることにより、各学年の学習内容を理解し、小中の単元のつながりを十分意識した授業を行うことができた。今回は中学校の『買い物表現』に対し小学校のどの単元とつながっているかを中心とした授業実践の取り組みであったが、小学校で実践されている内容は『買い物場面』のそれだけとつながっているのではなく、当然ながら他の場面にも多岐にわたりつながっている。そのようなことを意識しながら授業を組み立てていく中で、小中の様々なつながりが見えてきたことは大きな成果であった。また、小中のカリキュラム連携は必要不可欠であるということであらためて感じる事ができた。

さらに4回の研究授業を行い、小学校と中学校で互いに授業を参観し合い、意見を交流したことで、中学校教員が小学校外国語活動で行っている素地の基本がどの程度同質で整えられているということに気づいた。それを理解した上で、素地をどのように生かしていくかが明らかになった。小学校教員も中学校の授業を参観したことで、小学校と中学校間の文章表現の蓄積量の差が大きいことがわかった。小学校で文章表現を丁寧に扱い、中学校の学習へ生かせるよう指導していかなければならないと気づいた。

●課題

市内の全小学校の授業は「役割分担を明確にすることで、担任の学級経営力と外国語活動支援員の英語力、それぞれの強みがより生きる授業の展開」を目指し作成された『所沢市小中学校外国語活動 Team-Teaching』を基に授業展開されている。また、5・6年生の外国語年間指導計画に合わせて各単元の評価観点「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」「外国語への慣れ親しみ」「言語や文化に対する気付き」の3観点について、文章ではっきり示され、その目標に合わせた授業が展開されている。小学校での『言語や文化に対し様々なことに気づき、外国語に慣れ親しみ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする』という状態で中学校に引き継がれていくこととなる。小学校で培われている力をどのように中学校で活かせば良いのだろうか？連携が上手く進んでいかないことの一つに、児童生徒にどのような力をつけさせたいかについて具体的な目標の設定がないということがあげられる。英語で「できること」つまり Can-do という具体的な目標にかえていくことで、目指す生徒像や児童像が共有でき、今その学年で身につけたいコミュニケーション力が明らかになると考えられる。今後は授業実践を通し、カリキュラムの連携を明らかにし、より一層小中の円滑な接続を図っていきたい。

☆これからの英語教育

平成26年9月「英語教育の在り方に関する有識者会議」の報告の中には、小学校高学年からは「読む」「書く」の態度の育成を含め教科としてコミュニケーション能力の基礎を養うという文言が盛り込まれている。主として「流暢さを養う」外国語活動であったのに対し教科として盛り込まれる高学年の英語は、「流暢さと正確さをバランスよく養うこと」を目標としている。近い将来、その変化に対応し、より効果的な小中連携を図るためには、まず小学校教員間で、外国語活動と教科としての英語の違いについて認識し、共通点や相違点を共有することが大切になってくる。さらに、中学校でもその変化に柔軟に対応していく必要がある。

キーワード

小中カリキュラム連携

小学校外国語科への対応

生徒像共有のための can do リスト作成（中学校）